



急傾斜地工法研究会/相取工法協会



研究会だより



第2回定時総会を開催

2024.6.12

急傾斜地工法研究会と相取工法協会の令和6年度定時総会が6月12日、ホテル札幌ガーデンパレスで開かれ、斜面防災の課題解決、相取工法の普及促進を確認した。

会場には両会の会員など62人が出席。

はじめに中塚卓朗会長は「設立1年が経過し会員数も徐々に増え、各種の活動を計画通り実施することができた。多くの皆さんの参加は、この技術に対する期待の表れだと思っている。今後も相取工法で負担軽減、安全確保、時間短縮などの課題を解決するとともに、より安全な現場環境の整備を通し作業員の働き方改革にも尽力したい」とあいさつした。



議案では令和5年度の事業報告、決算報告がされ満場一致で承認。続いて本年度の事業計画、予算案を提案。現場研修会、講演会、技術委員会開催を盛り込んだ事業計画などを決議した。また、新入会員承認の案件については、会員数が6社増え急傾斜地工法研究会で26社から32社に、相取工法協会では15社から18社に増加したことが報告され、その場で盛大な拍手で承認された。引き続き技術顧問委嘱の議案が出され木幡行宏・室蘭工業大学大学院教授、石川達也・北海道大学大学院工学研究院教授が紹介され承認。このほか事務局長の大塩進一が退き、後任に丸田英資(伊丸特殊工事常務)が就任した報告がされた。

講演会で地盤災害のメカニズムを学ぶ

定時総会終了後、技術顧問を務める木幡行宏教授が「斜面における地盤災害のメカニズムとその対策」をテーマに講演を行った。会場には会員や来賓、道建設部からの参加を含め67人が参加し話に耳を傾けていた。

講演では斜面災害の種類や豪雨によるもの地震によるものなどを分類しながら、台風による平成28年北海道豪雨、平成30年北海道胆振東部地震などの発生メカニズムを解説。さらに種々の斜面災害対策工法を紹介するとともに、今後は「従来の想定以上の対策検討が必要だ」と訴えた。



2024.6.12 講演する木幡教授

和やかに懇親を深めました

2024.6.12 総会終了後開催

懇親会は山根浩副会長が「相取工法が i-Construction2.0 の現場生産性向上の流れに乗り発展できれば」とあいさつ。来賓の富原亮道議会議長もスピーチし、両会の将来にエールをおくり、技術顧問に就任した石川達也北大大学院教授の乾杯で懇親を深めた。

懇親会中盤では新入会員6社があいさつ。入会のきっかけや自社PRなどを述べ、会場から拍手が贈られた。最後に「世界の相取に-」と工藤豊輝伊丸特殊工事前社長が期待を込め締め括った。



会員動向

－新規加入－

前号発行から今年に入り急傾斜地工法研究会に北英建設(札幌市豊平区、明石誠社長)、渡辺組(遠軽町、渡辺勇喜社長)、丸協佐藤建設(釧路市、佐藤艶樹社長)の3社が加入し、会員数32社となりました。

また、相取工法協会にも渡辺組(同)が加入し、こちらは協会会員18社になりました。

－その他の変更事項－

- ▶伊丸特殊工事の代表取締役社長に6月1日付で大塩進一が就任いたしました。
- ▶熊下工業(本社・石川県七尾市)の住所が変わりました
〒926-0832 石川県七尾市盤若野町ワ部 33 番地 4

技術顧問の横顔

定時総会で木幡、石川両氏の技術顧問就任が決まりました。今回は、その横顔を紹介したいと思います。



	木幡行宏・技術顧問	石川達也・技術顧問
生まれ	S 36 年 旭川市	S 38 年 埼玉県
学 歴	北大大学院工学研究科	京大大学院工学研究科
専門分野	地盤工学	地盤工学
現 職	室工大大学院工学研究科もの創造系領域土木工学ユニット教授	北大大学院工学研究院教授
趣 味	コーラス (合唱)	ゴルフ

ジブクレーン KSJ-36 II L を導入

伊丸特殊工事

伊丸特殊工事は、急傾斜地工事の効率化と安全性を求め新型ジブクレーン「KSJ-36 II L」を3月下旬に導入しました。メーカーは三和テッキ(本社・東京)。新型クレーンは、従来のエンジン式と違い電気式インバーター制御を採用しています。無線で、オペレーターが任意の場所から操縦。フォームは後方に背負った制御盤が特徴的。電気式は、道が進める「ゼロカーボン北海道」への貢献も期待できます。現在、福島豊浜急傾斜地工事で初稼働しています。



話題

モノレール相取工法が恵山で初採用に

11月には見学会も

このほどかねてより進めていました「モノレール相取工法」が、函館市恵山町の治山工事で初採用されることになりました。

同工法はモノレールで定置式クレーン、ジブクレーンを運び組み立て、それによって資材を上方に搬入し施工を進めます。

具体的には老朽化した土留め鋼管の前方に、新しい鋼管杭を打ち込み新しい土留柵を構築します。木を伐採できない現場までの距離をモノレールで進み、砂防ダム上の起点から相取を開始するという新しい試みです。元請けは函館の(株)松本組・アロー建設JV。

急傾斜地工法研究会では11月初旬にも、この現場で本年2回目の見学会を予定しております。

*治山現場は上の写真になります。下の写真円内が道道側から見た現場。



地盤工学会の研究発表会に参加

地盤工学会は、7月23日から26日の4日間、旭川市で第59回研究発表会を開きました。地盤工学会の北海道支部長を務めるのは、当会技術顧問の石川達也北大大学院工学研究院教授です。

急傾斜地工法研究会と相取工法協会では、初日の23日発表会に有志が参加し防災減災に対する知見を深めて来ました。会場となったアートホテル旭川などには全国から1000人以上の研究者らが集結。気候変動による災害リスクの高まりは、道内でもいろいろな形で現実となっていて、研究者と技術者のより一層の連携が求められています。会場内では、会員の日特建設さんも自社工法紹介のブースを出展していました。

2024.7.23 石川支部長(右)を囲んで



おしらせ

現場見学会は8.30開催

令和6年度の第一回現場見学会を8月30日留萌市で開きます。現場は堀口組施工の留萌南町4丁目2急傾斜地崩壊対策工事です。留萌建設管理部発注で、昨年を見学会隣の個所になります。時間は13時30分からの予定です。

ホームページを更新

急傾斜地工法研究会/相取工法協会のホームページを7月3日に更新いたしました。昨年10月開設以来、事業情報等が反映できていなくて申し訳ございませんでした。今後はなるべく円滑な更新を心がけますのでよろしくお願いいたします。

会員一覧（本社所在地）

○印は急傾斜地工法研究会および相取工法協会の両会加入会員
●印は急傾斜地工法研究会のみ加入会員

〈令和6年4月1日現在〉

急傾斜地工法研究会 32社
相取工法協会 18社

- 【札幌】
- 伊丸特殊工事
 - 北海道Gクリフ
 - 丸幸ジオテック
 - エイコー技研
 - 環境技建
 - シン技術コンサル
 - 北英建設
 - 北海道技術コンサルタント
 - 明治コンサルタント
 - 和光技研

- 片桐機械（石狩営業所）

- 新和建設（室蘭）

- 高橋建設（厚沢部）

- 中塚建設（福島）

- 山高建設工業（留萌）

- 渡辺組（遠軽）

- シイナ重建（長沼）

- 沢田建設（釧路）
- 丸協佐藤建設（釧路）

- 山根土建（白糠）

- 草塩建設（登別）

- 星組渡辺土建（森）

- アークジョイン（函館）
- エジソンプレイン（函館）

- 【道外】
- 日特建設（東京）
 - 東亜グラウト工業（東京）
 - 熊下工業（石川）
 - TRソリューション（千葉）
 - 東亜利根ボーリング（東京）
 - ヒロセ（東京）
 - 美貴本（大阪）
 - 三和テッキ（東京）

** 事務局から **



事務局の丸田です。
いつも皆様には何かとご協力をいただき、ありがとうございます。
3月までは三井住友建設札幌支店次長を拝命しておりましたが、4月より伊丸特殊工事常務と中塚建設札幌支店長を兼任し、相取工法協会の事務局長も兼ねることになりました。
就任してまだ日は浅いですが、積極的に活動を続けてまいりたいと考えております。皆さまのお力添えをいただきながら進めたいと思いますので、どうぞ今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。

研究会だより 第3号（令和6.8.20発行）

発行 急傾斜地工法研究会 札幌市白石区川北 2312-24
Tel 011-872-6766

発行者 中塚 卓朗
企画編集 武山 一美（伊丸特殊工事）
事務局 札幌市白石区川北 2312 番地 24 〈(株)伊丸特殊工事内〉

